

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究科における教育成果の内容を検討し、成果を評価するための具体的な基準や指標の設定する。	→大学院諸問題検討委員会による上記課題に関する年4回以上の検討委員会の開催。	B
2. 研究報告会を開催したり、研究成果の報告機会を設置する。	→年1回の研究報告会の実施。	A
3. 研究科における教育全体を評価する全体的なシステムの導入を検討する。	→大学院諸問題検討委員会による大学院システム評価に関する年4回程度の定期的な検討委員会の開催。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

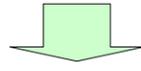
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 教育成果の内容とその成果を評価するための基準や指標を設定する。研究成果の報告機会を提供する。課程全体の評価システムを検討する。 (現状説明) 成果に関する評価指標の開発についてはまだ取り組めていないのが現状である。学生による授業評価はすでに実施しているが、卒業後の評価にはまだ取り組めていない。評価指標の開発と卒業後の評価の実施は今後の課題である。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 学位授与基準、授与手続きについてはホームページ等で明示され、公表されている。それらの適切性についてであるが、学位授与審査は審査会や発表会等を開くことにより確保している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



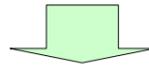
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	成果に関する評価指標の開発についてはまだ取り組めていない。
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	大学院諸問題検討委員会を中心に評価指標の開発の検討を行う。
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○完成年次以降に向けた準備が期待されます。

【学内委員】

○学習成果の評価指標の開発は困難な課題ですが、取り組みの進むことが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>
